夕刊
磐城新聞
二月二十三日發行
定價一ヶ月金六十五錢（郵税拾五錢）
廣告料金　普通欄　金六拾錢　特別欄　金九拾錢（五號十二字詰一行　地所指定一行增同）
編輯印刷兼發行人　柏木　福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所　磐城新聞合資會社
長距離電話（タイラ イワキ）平局私設第十二號　電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）
振替東京一〇八五六五番

新興……文藝の三要素

上

藤井生

いはゆる大衆文學と、いはゆる純文學とが對立する場合には、僕は大抵大衆文學の側に味方をするものだが、それは主として本質上の問題に就いてゞある

純文學には、餘りにも多くの封間的評論家を慫慂せしめてゐるが、大衆文學にはそれが殆どない。そのことが僕をして大衆文學の味方にする一つの理由でもある

現在日本の大衆文學に眞面目に評論するに足るやうな作品がない事は、甚だ殘念なことである

僕は、たつた一作でも、大いに評論し、大いに賞讃するに足る大衆文學作品の、現はれることを大きな眼で絶えず探してゐる者だ。又その機運を作るために、かなり努力をやつたことさへある。ところがそれがなかなか現はれさうもないので『それでは僕自身がそれを實現してやらう！』といふので、こゝ數年來專心してゐる譯でもある

現在日本のヂアナリズムでは歐米諸國に劣らないやうな、大衆藝術映畫脚本、戲曲、小說など大成することは頗る困難である

歐米の多くの勝れた作品は、いつでも、長篇でも、短篇でもがつちりと組織されてゐる。根本的に構成されてゐる

時間に餘裕が許され、幾度も訂正されて、その後で發表される場合が多いのである

日本の作家にも、日本派にそれぞれよき天分をもつ作品はあるやうであるが、どうもがつちりと組織された、永久性の作品がない

山の香

奈良　辰巳和子

木洩れ陽を浴びて
春山の蹊を行けば
鶯の囀がする

落葉に埋もれた道は
ふつくらと盛り上り
歩く度び
カサコソと一音がする
落葉にこもる山は
まだ冬枯れの姿だ
陽を浴びて立てば
懷しい山の香がする
松の皮の匂ひがする
（これは故郷の山のにほひ）
瞳をとぢて
山の香に浸つて居ると
ふるさとに歸りたい
素直な心が湧く
瞳をつぶれば
故郷の山が浮ぶ樣な
故鄕の山が呼ぶ樣な――

夜看刀

珠雲　小野務卒

一宵脱匣颯颯號
星斗光中意氣豪
想起當年伴幾朔
阿兄留膽在斯刀

影

岡松雄

○月影の青きに身をば潜めつつ亡母の姿を月に呼びかく
○なんとなんと五つの指がのびのびと青き植物に觸れてゐるなり
○かさかさと踏みゆく冬のこの道に首うなだれてわが形もなし
○あやふやなこころの踏みゆく甃石の凍てに灰色の露うつりゐる
○一途さが固く握らせし拳なるにもう負けてゐる街の生活に

新年俳句、大會の記

主催好間初鴨句會

伊藤寒山子記

六

三點　羽子突くやバスのサイレン響き來る　磐洲子
二點　柴山の馬醉木が咲きし日の靜か　磐洲子
二點　羽子日和兒等は門遊びつかれたる　龍尾
二點　荒れてゐる經塚かたる花馬醉木　露草
二點　よき母になりてしばしの羽子をつく　金鈴子
二點　紅の口澄めよと羽子をあたゝめぬ　柴子
二點　つきそれし羽子松の葉に觸れて落つ　何鳴
二點　明王の其庭淨め花あしび　上鶴
二點　羽子をつく子の眉目よくも母に似し　秋岳
二點　花馬醉木雨足白く降りそだち　寒山子
二點　花のしび褪田のひかり來てまぶし　同
二點　蘿草の風になびけば照るあせび　同

若鮎・春の田（席題）

六點　みなかみの山むらさきや鮎のぼる　何鳴
五點　若鮎のさ走る瀨々の淺くして　青洲
五點　春の田にあかつきの雨煙りけり　磐洲子
四點　春の田の畔やはらかくふみ崩る　寒山子
三點　日光來て若鮎跳る瀨となりぬ　露草
三點　春の田はにぶき光をひろげたり　梅櫃子
三點　若鮎に川底の石艶もてり　上鶴
二點　土の香の湧いて春田の極みなし　旗城
二點　かち渉る水に光りぬ上り鮎　同
二點　春の田に何やら働くにごり見し　同

2月24日

△岡山縣の名刹西大寺の裸祭△江戸幕府に軍艦奉行置かる（安政六）△我國で初めての電信實驗（嘉永七）△舊正十四日の行事左義長、石城地方の鳥小屋

今日の訓へ

哲名　山人

人間の行爲が純粹意志の自由に基づく自律的のものでなくて何者かによつて他律的に支配されつゝあるならば、かゝる行爲に對しては、人は責任を負ふ限りでなく、かくては行爲の道徳を云爲する理由はなくなるものである、かやうに道徳の存立を究極に於いて支持するものは、無限的自由の眞理でなければならぬ

講談　妖刀流轉（えうとうるてん）

（20）　邑井貞吉演　佐々木今朝吉畫

權次の最期（十二）

魔がさすと申しませうか拔目のない了念が、この時ばかりは欺されてゐる事を氣がつかないといふのが一足飛びに安樂な身分にならうといふ夢のやうな望みの爲め心が迷つてゐたからで御座いましよう

夜のあけるのを待かねて了念が女の許へこの大金を屆けてやつた。女は大喜び嬉し涙をこぼしまして

女『お父さん有難うよ、持つべきものは親だねえ。これで私がどの位旦那の前でも肩身が廣いか知れやあしないよ、あゝ有難いお父さん、この御恩は忘れません！』

と泣いて喜んだ。了念もそういはれればいやな心持はしない

了『しかし何だぜ呉々もいふ通り、これはほんの一時の見せ金で、俺がひどい工面をしてある處から借りて來たんだから、お前の顏も立つて旦那からその金を返して貰つたら、すぐにお父さんへ返して呉れなくちや乃公が困るから、そこは間違ひのないように頼むよ』

と念を押すと

女『大丈夫だよお父さん。決してお父さんに迷惑のかゝるような事はしないから、それは安心してゐておくれ、又お父さんを困らせるような事でもしたら、それこそ私に親罰が當るよ』

とどこ迄も口前のうまい女、この手で何千何百人と男を綾なし年中板頭を張り通した客取りだから了念一人ぐらゐを丸め込むのは造作もありません

了念充分に信じてその日は歸る、あくる日になつて廻つて行くと今日は一寸お父さんがゐては都合が惡い事があるからと格子先から歸したが、それつ切りであとは如何に毎日了念が行つても女が逢はうとしないから、さあ不安になつて來た

了念も氣が氣でありません、何うした事かと思ふから毎日〳〵尋ねて行くと此方にお上んなさいとも何しに來たとも云はない、てんで逢はうとするどころか、汁も引つかけようとはしないので了念もいよ〳〵心配になつて來てある日の朝早くから格子先へ出かけて

『今日は何でも逢はして呉れなけやあ歸らない、娘に逢はして呉れ〳〵』

と了念が狂人の樣になつて怒鳴つた

すると廊下をばた〳〵上草履を引ずり睡さうな目をして出て來た彼の女郎が

女『何をいふんだい、娘とは誰の事だ面でも洗つて出直して來なふん誰れがお前のような薄汚ない爺いの乞食坊主と本當に親子などの約束をするものかね、お前の金ばかりは如何に手取りの私でも卷上げる事は出來[illegible]のが癪に觸つたから皆なと賭をしてかゝつた狂言だよ！、まんまと首尾よく金を取上げ賭に勝つちまへばもうお前なんぞに口も利く用はないんだよ、何だね見つともない宜い氣になりやあがつて娘々が聞いて呆れらあ、さあ皆な構はないからこの爺を突出しておくれ！!!』

と、恐ろしい權幕でどなりつけ冷然として敵手にもならない。いや了念が怒つたの怒らないの、扨はそうか己れ欺したのかと、見る〳〵眞つ蒼になり身體を震はせ口惜し紛れに女へ飛びかゝらうとする奴を、そこへ行くと斯ういふ嫁業の奉公人なんてゐるものは薄情な者が揃つてゐるから

○『えゝ何をしやあがる』

とどうーんと突いた

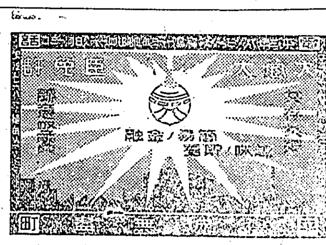
（朝吉畫）

今冬の流行物
澤山入荷致しました……
服は高島屋
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目電話三八六番

平町南町五二
根本產婦人科醫院
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（入院隨時）

酒とマヅイ
おでんの榮ちやん
平町田町花ノ里
電話三三番

廣告



洋服裁縫
時代ニ適シタ職業
○學歷（尋卒高卒）
○年令（十六、七歲迄デ）
小徒弟募集（十名）
佐川洋服店營業所
（電四一八番）

冬のサロン
食事、喫茶、酒場を兼ねた
男給の店
平・田町・電三五二

和洋
建具　家具　テーブル　椅子
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。
御各官衙學校諸用達
製作販賣
平町五丁目四
片寄製作店
片寄小彌太
電話四八四番

互融會事業近况
事業報告（昭和拾貳年自一月一日至一月卅一日）
會員數　六、一四二口
世帶數　四、一六四戸
積立金　五九、九四五、八二錢
融通口數　一、三二二口
融通金額　八〇、一六三、一三
融通金回收額　一九、五四八、五〇
一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ奬勵
一、小資本金ノ相互融通
太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所　福島縣平町揺槌小路一番地
小名濱方部　小名濱町古港
湯本方部　湯本町天王崎
菊田方部
相双支部　原町東一番町

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
織田材木商店へ
福島縣平町
電話平四六〇番
一變せる勉強振りを、ぜひ一度お試しを乞ふ
營業種目
建築木材一式
銘木・ベニヤ板
秋田産・杉四分板
建具材・便利瓦

石城郡平町田町五番地
千代田火災保險株式會社代理店
丸三株式店
公社債株式
現物賣買
電話仲介
常盤光威
電話四六番
小店員募集（十五、六才）委細面談

電話開通
皆樣のスタヂオ三光館へ電話開通いたしました、御寫眞の御用には何卒御利用願ます。
電話五四一番（ゴシイキ）
電氣採光の完全な設備もありますから晝夜撮影出來ます出張撮影には是非御利用願ます。
鐵道省指定
各學校御用
平町役場隣り
三光館スタヂオ

時代の要求皆樣の足!!
尼子タクシーへも
豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ…迅速簡便
是非御利用を……。
市內…三〇錢　市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行＝直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平町二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
營業種目
輕油、揮發油、モビール油、重油、マシン油、機械油類、植物油、胡麻油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
本店　茨城縣土浦町田宿（電話六五三・八二四）
本店　水戸線下館驛前（電話五五・三三九番）
支店所在地
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店（電話三七番）
小名濱支店（電話一三七番）
海上給油所及油槽所　大津・平潟・江名濱

全國の市制地として 平町は百四十數番目
同級の町村が現在約四十

數字は語る

新進平町が一枚加はると全國第何番目の市となるわけであるか?、試みに一昨十年十月一日の國勢調査による統計を見ると、當時の現在で大は百十九萬千九百三十九世帶、五百八十七萬三百八十八人の大東京から小は七千百九十九世帶、三萬五千六百六十一人の松阪（三重縣）に至る迄合計百十市であつたのが其後三條（新潟縣三三、四〇〇人）同年十月十五日德山町（山口縣三二、〇六二人）昨年四月一日平野村（長野縣四一、三三三人）＝岡谷と改稱、同八月二十五日防府町（山口縣三〇、六〇六人）同十月高山町（岐阜縣二〇、一四五人）同十一月三原町（廣島縣二一、一三九人）と段々殖えて現在では百四十一市で前記國調以後實に三十市以上の急激な增加を示し他に優先なくんば平町は全國百四十二番の市となるわけである、而して其後市となつた前記の外國勢調査當時に於て既に三萬以上の人口を有し今尚ほ其儘となつてゐる町が十三、村が二、尚ほ二萬五千以上三萬以下の町村が二十七ケ町村ある（內閣統計局の調べが發表されてゐぬので國調以後の分は數字に一二相違の點あるやも測り難きに付諒を乞ふ）

二階建の木造 平商業建築樣式決る
けふ委員會で協議

新年度豫算に建築費八萬圓を計上した平商業學校は町で愈よ新築樣式を決定する事となり今二十三日午後一時からこれが委員會を開いて協議した

建物は大体二階建木造で十學級に分け實踐室、雨天体操場其他の附屬建物を合し十棟に上ると

平局管內 一町十一ケ村の 聽取者千數百名
旺盛な地方のラヂオ熱

石城地內に於けるラヂオ熱の勃興は近來頓に著しいものがあり、各自智識慾の向上から多方面に亘つて着々精神文化の尺度を引上げられて居るものの如く平局管內一町十一ケ村の現況を見るも聽取者千三百餘名の多數に上り未手續き者も漸次正式の聽取屆出をなしつゝあると同時に、局及び電氣會社の督勵もあり、今月末には三百口位の增加となり結局千五六百名に上るものと觀測されてゐる

臨時列車で 神詣團体出發
平驛から二十五名

平驛で募集してゐた京都方面の神詣團体は同驛から二十五名乘車、旅情を慰めるレコードのスピーカーを備へて昨二十二日午前四時四十分發の臨時列車で出發した、水戶運輸事務所管內では約三百名參加、今二十三日は大阪泊り、來る二十六日歸途につく

經濟更生計劃指導

縣經濟更生課では本年度指定村の經濟更生計劃樹立指導督勵のため來る二十四日午前九時から平圖体事務所に關係村當局を招き協議指導する

平は三年目
遞信官署体育聯盟競技場決定す

遞信從業員からも五輪選手を出せ——といふ意氣込みで既報の如く通信官署體育聯盟なるスポーツ團體が現はれ縣大會、地方大會を經て毎年一回東京に全國大會を開催することになり今年第一回の縣下大會は福島市で開くことに決定、その競技種目及び出馬選手も△野球△庭球一局二組△卓球四名（女子に限る）△劍道三名△弓道四名△水泳同△スキー同△陸上競技、その都度協定等近代スポーツを殆と加へ『天才』の登龍門として注目されてゐる、なほ既に結成された福島縣通信官署體育聯盟の役員は平局から佐藤局長、尾形庶務主任が任命され競技會場は持廻りで福島のつぎが若松、平、須賀川白河の順となつた

凶作防止講演座談會
郡駐在吉成技手指導

凶作防止を主眼とした郡下各村の水稻栽培講演會は今廿三日より左記日割によつて小學校で開催、郡駐在吉成技手臨席の下に終つて座談會を開く

二十三日入遠野　二十四日箕輪　二十五日澤渡　二十六日永戶　二十八日大浦　三月一日川前　二日大浦　三日夏井

米價保合
俵米共販不調多し

出荷千二百五十七俵に上つた石城販聯の俵米定期共販は昨二十二日午後から行はれたが約半數は不調に終つて取引俵數約六百二十四俵相場左の如く前回に比し大体保合

平一號一一、六八錢　小川一一、七六　大野一一、七九　平二號一一、七二　平三號一一、六八　飯野一一、六七　勿來一一、八六　高久一一、七六

酒稅金卅萬圓也
滯納懸念の赤信號無く 地方釀造界明朗

二月續きの納期に今月來月は酒屋さんに取つて年內の最大受難季であるが郡下三十五軒の釀造家によつて納められる今月末迄の第三期分十四萬五千五十四圓及び矢繼早やに來月末日迄に納める第四期分同額この合計約三十萬圓は各當業者の眞面目な手配と當局の懇切な督勵により此の期に有り勝ちな完納を危む赤信號も無く極めて順調に推移するものの如く觀測されてゐる

而も立て續けの今納期直後に於て四月より二ケ月毎に徵收すると云ふ建前の下に少からず當業者を脅威した所謂馬場稅整案の藏出し課稅制度は政變と共に解消し今日としては單に結城新藏相による臨時增徵法案の議會通過と共に若干の增稅を見るに止まりこれとて消費

平町の徵兵檢査
五月上旬頃か

郡下今年度の徵兵檢査日割は昨報の如く來る四月二十八日から十日間に亘り平第一小學校講堂（植田方部を除く）で行ふ事に決定、福島聯隊區から發表されたが平町の檢査は市制實施其他の關係で五月上旬頃になるらしく町役場から聯隊區司令部にこの旨通知した

凶作防止講演座談會

大谷航空中佐
陸軍記念日當日の 派遣講師決定

國防思想の普及徹底を圖るため平町では既報の如く來月十日の陸軍記念日をトして時局講演（講師陸軍航空兵中佐大谷修氏）映畫座談會を催すが場所は追て決定

募集

少年工場員　二名

小學卒業程度のものにして町內居住者に限る、履歷書送付あれ、面會日通知す

本社

水產聯合會に奬勵金

保證責任石城水產加工販利組合聯合會經營のフィッシュ、ミール中心工場並びに附屬工場に對する農林省農村工業奬勵金一萬四百三十圓は二十二日左の如く交付された

石城水產加工販利聯中心工場一萬二百圓　植田信用組合の附屬工場百五十圓　鹿島村同八十圓

丑年と共に 畜牛組合事業
愈よ四月第一步に入る
技術員＝種牛借入決定

丑年に因んで力强いうぶ聲をあげた石城郡畜牛改良組合總會は此程泉小學校で開かれ新豫算四百七十九圓を計上、愈よ來る四月から本格的事業に乘り出す事となつた、今後は各町村に支部を設いて事業の發達を圖る一方縣から講師を招いて講習會を開催する、新年度の事業左の如く縣から借り入れる種牡牛は泉村で管理する事となり今後の活躍を期待されてゐる

1技術員設置（一名の囑託獸醫を置き家畜衞生其他全般の技術に從事）2種牡牛の飼育（種牡一頭を借入れ優良種とくの繁殖を圖る）3牝犢購入助成（牝とく購入を斡旋し豫算の範圍で經費の一部補助）4品評會の開催（優良種の普及を圖り成牛及犢の品評會を開催して一般に供覽）

第三學藝會

平第三小學校では既報の如く今二十三日午前九時から同校講堂で兒童學藝會を催し大賑ひのうちに正午終了した

景氣好轉の反映！
質屋さんの扱高減少

平町五軒の質屋さんが昨年中の取扱高は

貸出二七、五〇七口（九二、三六八圓）

受戻二六、五五九口（九三、〇九九圓）

流れ一、〇六三口（二、八〇四圓）

同年末現在高が一萬一千四百十二口（三五、六〇三圓）で前年末の一萬一千百五十七口（三七、一三八圓）に比し百十五口千五百三十五圓の減少は景氣好轉の結果と見てよからう

相互の親睦を目的に 片濱貨物商業組合結成
きのふ小名で發會式

湯本、江名、小名濱、豐間のトラック營業者二十七名は既報の如く商業組合法に基いて石城片濱貨物商業組合を結成、昨二十二日午前十時から小名濱町新米旅館に於てこれが發會式を擧行役員選任後規約を制定した加入車八十台

今後は營業者の親睦を目的に賃銀の協定をはじめ車輪、部分品、ガソリンの共同購入をなし、尚將來は組合で修繕工場を建設營業者の經費低減を圖る方針であると云ふ

勿來後任町長 助役昇格か
來月一日選擧町會

さきに流會となつた勿來町の町長選擧町會は來月一日午前十時から開き愈よ決定の運びに至るものと觀られてゐるが現在の情勢から推して助役橫山太一氏の昇格說が最も有力であると

天氣豫報（小名濱測候所發表）

今晚は南東の風曇小雨明日は北の風曇小雨後晴

自慢の山林燒く
昨日上小川の晝火事

また山火事——昨二十二日午後零時半頃上小川村鷹崎地內村有松林から發火、平町から自動車ポンプ驅けつけ消火に努めた結果約十五町歩を燒いて二時頃鎭火した損害百五十餘圓、原因平署で取調中

尙同所は上小川自慢の植林地だつたので惜しまれてゐる

。。。荒川でも山火事。。。

昨二十二日午後四時頃飯野村上荒川字大澤地內山林から發火し約十町歩を燒いて鎭火した原因損害中署で取調中

昨年十二月 出獄した男
大和田と拾兒事件

カフエー、料理屋等でミッチリ無錢飲食を働き平署に突き出された平町三丁目元グリルバッカス方コック飯野村生れ大和田義光（三〇）は目下平署の取調べを受けてゐる、同人は昨報の如く去る二日市の日に拾兒の赤ちやんを拾つて屆けたものだが當時の行動其他から推して或はこの拾兒事件と何等かの關係を持つてゐるではないかとも云はれてゐるが同人は去る九年十二月詐欺罪で平區から懲役二年の判決を言渡され以來二年間宮城刑務所で服役、昨年十二月出獄したばかりのものなので同人の子でない事丈けは判然としてゐるやうである、同署では引續き追究中である

磐中生の家出事件
高飛びしたか？
現金六百圓を引戻す

『人生は不可解、生きる力を失つた……』旨の遺書を殘して行方を晦ました双葉郡久の濱町字東町魚問屋普五郞次男磐中四年生木村元吉（一九）田村郡上大越小學校長名倉末治次男弘（一八）兩名の行方は目下平、四倉兩署で捜してゐるが未だ判明せず木村が去る廿日家出の際拐帶した實父名儀の小切手（額面千圓）は同日七十七銀行平支店からうち六百圓を引き戻してゐる處から見て高飛びしたのではないかと見てゐる

双葉郡木戶小學校訓導の實姉方から通學してゐた名倉は昨年双葉中學から轉校して來たもの、木村は繼母なので家庭の不和が今回の家出の原因となつてゐると云はれ、又兩名共植松少將の『南洋視察談』を聽いて少らす憧れを抱いてゐた節もあつたと云ふ

小檜山校長談

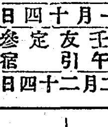
感傷盛りの少年達の家出とて間違つたことがなければよいと學校でも心配してゐる、右に就き磐中小檜山校長は語る

土曜日以來無斷欠席してゐるので本日父兄を呼んで其事情を質すと家出して居り併も二十二日夕方夫々遺書を送つてゐるさうで驚いた、兩名とも學校の成績は家出せねばならぬ樣な惡い成績ではない、たゞ文學に走り多少感傷的に陷つてゐる傾向があつたので組主任に對し注意はさせて置いた

二十四日（小名濱測候所發表）

滿潮 前四、三〇 後三、二〇

干潮 前九、五〇 後一〇、二五



舊一月十四日

水曜 壬午 友引 定 參宿

新二月二十四日

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 福利增進し信用倍加すれども不眞面目は凶▲二黑 無駄花も無く實を結ぶべき盛運日進むに吉▲三碧 手なれし事は平順なれども他事を行ふは凶▲四綠 意想外の災くわにあふことある日手堅く守れ▲五黃 傍廻りをせず直行するが吉共同の事業亦吉▲六白 元氣益々加はりて謀る所亦成るべき幸運日▲七赤 盛運のやうに見ゆれども油斷すれば過あり▲八白 心の結ぼれも解けて物事に活氣づく幸運日▲九紫 志望は瓦解し計畫は停とんし勞して功なき日

廣告

平町田町 井坂產科婦人科醫院 電話五五九番

生徒募集 （學則入要ノ方ハ本校ニ申込マレタシ）
第一學年 壹百名 新學期 四月五日
第二學年 若干名 出願期日 四月五日
受驗講座 五十名
特設受驗講座（各種受驗ノ希望者ノ爲ニ）
磐城青年學校 平町城山

昨年十二月

美しくなりたい方は 生公華

効力本位

私の家の外傷から習った良く効く藥はコレです。

病は總て毒素の爲其の患部に炎症性病狀を有し血液の循環が惡くなるから冷る腫れる痛くなる痛む事と思ひます此の場合直接患部に浸透吸收し病菌又は毒素を殺消し體內に有る毒素を絶ず排除又は吸收せしめて『エネルギー』の消費衰弱を補ふて細胞の活力旺盛ならしむる必要有りと思ふ此の場合專ら漢藥の王座をしむる生公華を是非お奬め致します本藥は漢方貴藥のみ調和せる粉末藥にしてこれに必らず玉子白味噌等と共に良く練合ネル布に伸して使用するのです一回々々と其の效力があらわれ非常に使用する事に付てはりあいの有る名藥です詳細は使用法にあり。

赤地に黑の文地で生公華と書いた旗の立て有るお店が特約販賣所です。

藥は能書より效力の二字が本意特約店御希望の方は本舖へ類似藥ある故必らず生公華と名指してお求め下さい。

主效 肺炎 肋膜炎 氣管支 扁桃腺炎 神經痛 リウマチス 關節炎 中耳炎 打身 くじき

平町專賣店 山野邊藥局 平町五丁目（電呼六六八）

生徒募集
本科 五十名 裁縫專修科 百名
專攻科 三十名 師範科 二十名
本科裁縫專修科第二學年補欠 若干名
附設 洋裁科 若干名
文部大臣認可 藤田女學校
一、願書受付 三月三十日マデ
二、詳細は學則其他請求ノコト
平町田町（電話三二八）

職工及徒弟募集
大工職 十名入用
挽物見習 十五名入用
御希望の方は至急申込まれたし
各種木製玩具指物 木工品製作卸
佐藤木工所 平町十五丁目 電話二五三番

外科、內臟外科 エツキス光線科
新設……產婦人科
院長 安齋徹
醫學士 黑澤廣
入院隨意 平町田町 安齋醫院 電話四七五番